

(大阪府教職員互助組合季刊互助だより『希燦時』原稿 = 360字)

「最近、印象に残る本と生き方」

つい先頃、南溟寺(泉大津市)住職・戸次公正^{べっ き こうしやう}さんの著書『意味不明でありがたいのか - お経は日本語で』(祥伝社新書)を書店で見つけて早速読んだ。20年ほど前、寺の本堂で親鸞研究者の故河田光夫さんの講義を拝聴した後、その場が一転して、人権問題についての徹夜談義へと盛り上がっていったことが懐かしく思い出される。著書の中で戸次さんは、宗祖親鸞の思想をご自分の生活史と重ね合わせて読み解いておられる。戸次さんが「お経は日本語で」という試みをされようとする生き方は、晩年の親鸞が民衆にわかりやすい『和讃』を広め、蓮如が口語体の「御文」を数多く発信したことと重なって見えてくる。奇しくも、『新約(聖)書』の「『神よ、神よ』という者が天国に入るのではなく、神の御心を行う者だけが入るのである」という意味の一節にも通じているように思う。

(大阪府立伯太高等学校 脇田孝豪)